

編集室より

- ◇ 5月の高温に比べ6月は空梅雨模様のかかりとした初夏で割合しのぎよい月始めであった。今年の夏は昨年より暑さがきびしいとの予報に酪農家は牛乳の消費が多少伸びると淡い期待をかけているが、一方では消費の伸びを押える要素となる牛乳価格1本2円値上げが全国的に6月1日より実施された。
- ◇ 4月から開放経済に踏みきり畜産が貿易の自由化等の国際競争の矢表にさらされ、酪農経営に不安をかもし出している矢先、次いで市乳の値上げから来る酪農経営に及ぼす国内外のしわよせは酪農家にとっての今年の最大の関心事といわねばならない。値上げの理由の一つに生乳の生産意欲を刺激することがあげられるが、2円値上げのうち、50~60銭しか生産者には分けまえが来ないというのでは果して生乳の生産意欲を刺激し得るかどうか、疑わしいところである。
- ◇ 数字は少々古いが、日本の牛乳が1本14円であった時代、ドイツでは7円8銭と日本の約半分であった。イタリアでも9円30銭の市乳値である。牛乳の消費量によって国々の事情も違うのであろうが、それにしても生産農家の取り分は政界一安いというのはどうにもツジツマの合わぬ話である。農林大臣は2円値上げのうち半分は生産者へ廻せと談話を発表しているが、小売り機構、乳業メーカーの過投設備競争。つまり流通、加工の不合理的をほったらかしにしたまま酪農行政の近代化を果そうとしても無理である。政治的解決に抜本的対策を樹立する努力をしないで調整にお茶をにごしているところに根本問題がひそんでいるといわなくてはならないのではなかろうか。
- ◇ 酪農問題も含めて日本畜産の将来は暗たんたるものがある。大体において、畜産の指導体制そのものにいまだ試策の域を出ていないというおくれ方である。将来の日本農業の骨になるとロ々にいいながらも畜産農家の生産意欲が日々減退していくのを手をこまぬいてみているだけという有様を現実の行政とみなくてはならないとは情のない話である。僅かばかり今年度から一つの方法として、畜産コンサルタント事業の着手を打出して来たがこれについては本号で特別解説を掲載したので一読願いたいと思う。岡山県でも岡山大学や各機関のトップメンバー、十数名からなるコンサルタント団を組織、畜産経営改善の糸口を究明しようと、発展意欲のある地帯の受診申込みを持っているが、新しく出来る畜産指導体制に期待し、畜産の指興体制確立に協力するため、進んで受診に応じて貫きたいと思う次第である。誰かが担わねばならぬ畜産を誰が意欲的に開発していくか、それは実践することを決意した人のみが福音をうけ、利の増大を図ることが出来るのであろう。

本誌の予約申込要領

誌代 一部 50円（送料共）

年間予約 600円（送料共）

但し一部購入の場合は増頁号の誌代をその都度の価格とし、年間予約者は増頁特集号の分も一部50円のサービス価格です。

集団申込の特典

10部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を45円にします。百部以上を一括で年間予約する方は一部誌代を40円に割引きます。但しこの場合は一括購読ですから個人別発送は致しません。

申込方法

同封の振替用紙に代金を添え住所氏名明記の上申込んで下さい。

集団申込は代表者の名で何人分かを明記、誌代合計金額を払込んで下さい。但し申込みは前金を建前としております。

申込先

岡山市東田町53の2農業会館内
社団法人岡山県畜産会管理普及課
（電話）岡山2-8575番
（口座番号）岡山1303番